

第2次 川根本町総合計画概要版

基本構想 2017→2026
前期基本計画 2017→2021

水と森の番人が創る癒しの里 川根本町
豊かな自然、お茶と温泉に彩られただれもが安心して暮らせるふるさと

第2次川根本町総合計画概要版

基本構想 2017→2026
前期基本計画 2017→2021

発行：平成29年7月

川根本町企画課まちづくり推進室
428-0313 榛原郡川根本町上長尾627
TEL:0547-56-2221 FAX:0547-56-2235



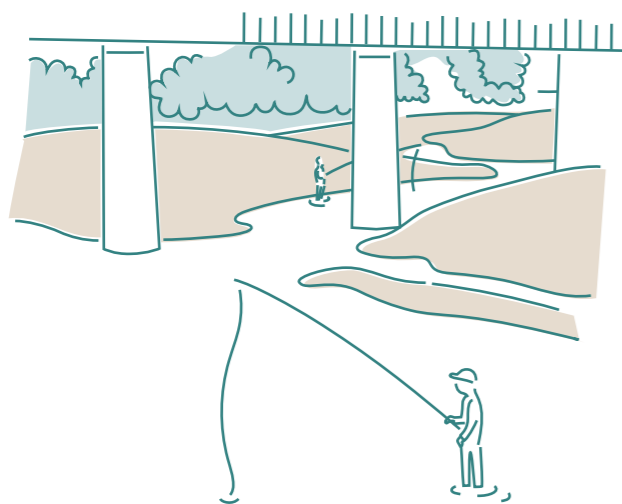
はじめに

総 合計画は、川根本町が目指すまちの将来像である「水と森の番人が創る癒しの里 川根本町～豊かな自然、お茶と温泉に彩られた、だれもが安心して暮らせるふるさと～」の実現を目指し、10年という長期的な視点から、総合的かつ計画的に行政運営を図るための指針となるものです。

本町では平成19年3月に第1次川根本町総合計画を策定し、まちの将来像の実現に向けて取り組んできましたが、平成28年度を以て計画期間の満了を迎えるため、これまでの計画の進捗状況や新たな課題を的確に把握・整理し、また、社会情勢の変化や時代の流れなど、当町を取り巻く状況を十分に認識し、総合的・戦略的な視点に立った実効性の高い第2次川根本町総合計画を策定しました。

この「川根本町総合計画概要版」は、これからの10年間で町が町民の方達と一緒に取り組んでいく計画をわかりやすくまとめたものです。なるべく文字は少なく、イラストレーションや、グラフ、表、を使ってわかりやすく総合計画をまとめました。

ぜひお目を通して、川根本町の未来像を共有していただければと思います。



自然とふれ合う遊びがすぐにできる・・・
それが、川根本町のライフスタイルです



家族を一番に考えて、ゆったりとゆっくりと
生活できる、川根本町の一番のすてきなところ

第2次川根本町総合計画策定にあたって

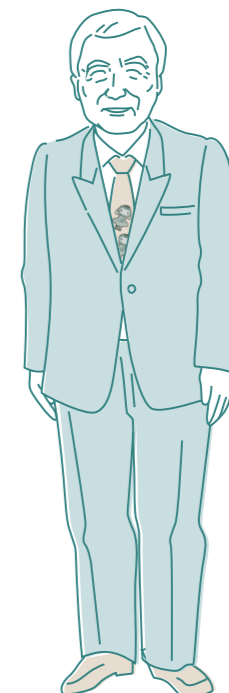
川 根本町では平成19年度より10年間を計画期間とする「第1次川根本町総合計画」を策定し、総合的・計画的なまちづくりを実施してきました。しかし、第1次総合計画を策定した平成18年度ごろとは人口減少や少子高齢化の進展等、当町を取り巻く環境は大きく変化し、新しい時代を迎えています。一方で、若者交流センター「奥流」が平成28年3月に完成し、若者が切磋琢磨する拠点として大いに活用されています。また、平成30年3月には青部バイパスの全区間が開通します。この道路が、町民の経済活動や安心安全な暮らしを支え、当町が一体化していくための一助となることを確信しているところです。

このような当町を取り巻く様々な変化に対応するためのまちづくりの指針として、この度、平成29年度から38年度までの10年間を計画期間とする第2次川根本町総合計画を策定いたしました。

本計画では、「千年の学校」の目標である「ひとづくり」、「魅力づくり」、「活力づくり」の3つの観点を好循環させ、相乗させることを基本理念に掲げるとともに、第1次総合計画から引き続き、「水と森の番人が創る癒しの里 川根本町～豊かな自然、お茶と温泉に彩られた、だれもが安心して暮らせるふるさと～」をまちの将来像としました。

まちの将来像を実現させ、川根本町を千年先も続く「まち」としていくために、町の総力を挙げてまちづくりに取り組んでいきたいと考えていますので、引き続き町民の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画策定にあたり、多大なご尽力を賜りました総合計画審議会委員及び総合計画策定委員会委員の皆様をはじめとする多くの関係機関や関係団体の皆様、また町民アンケート、タウンミーティング、子ども議会、ヒアリング等を通じて貴重なご意見をいただいた皆様に心から感謝を申し上げます。



平成29年3月
川根本町長 鈴木敏夫

総合計画とは

総 合計画は、行政の一番の指針となる計画です。それは、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つから出来ています。「基本構想」は平成29年度(2017)から平成38年度(2026)までの10年、「基本計画」は平成29年度(2017)から平成33年度(2021)までの5年間です。そして、「実施計画」は平成29年度(2017)から3年間として考えています。「実施計画」は毎年度ローリング方式によって見直しをして、その時に一番最善の計画を立てていきます。

基本構想

基本理念と、それに基づいた「目指すべき川根本町のすがた」と、それを実現するための施策の方向性を示したものです。

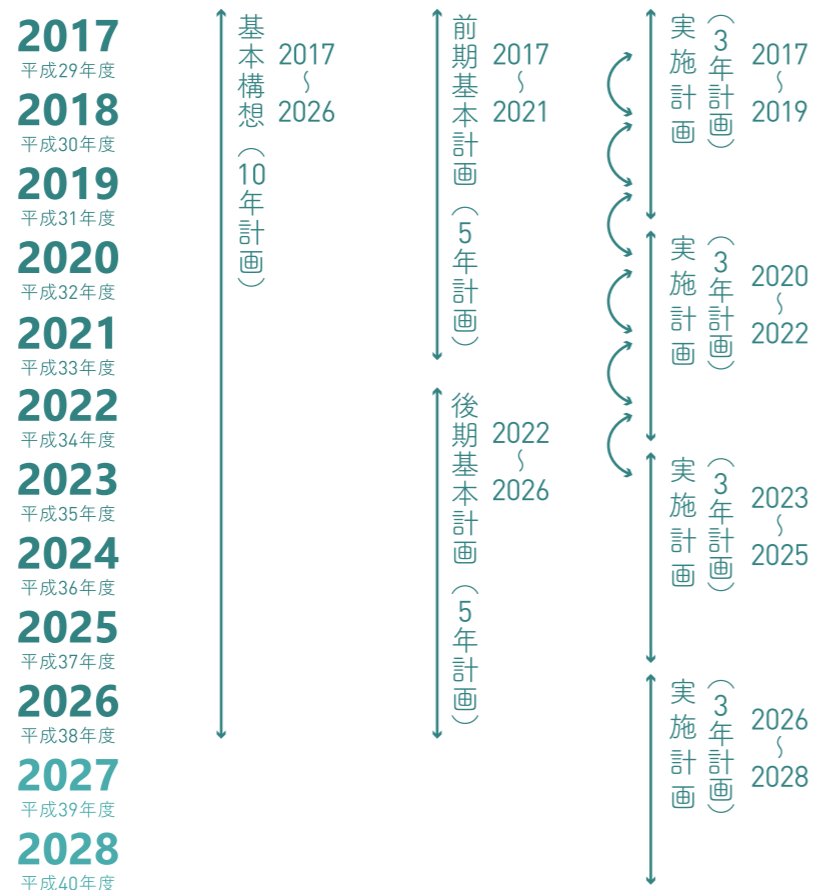
基本計画

基本構想に示した目標に向けて具体的に進めるプロジェクトを数値目標と一緒に示したものです。

実施計画

具体的な事業の内容・事業費及び実施年度を明らかにし、財政計画との整合を図るものです。

総合計画のスケジュール

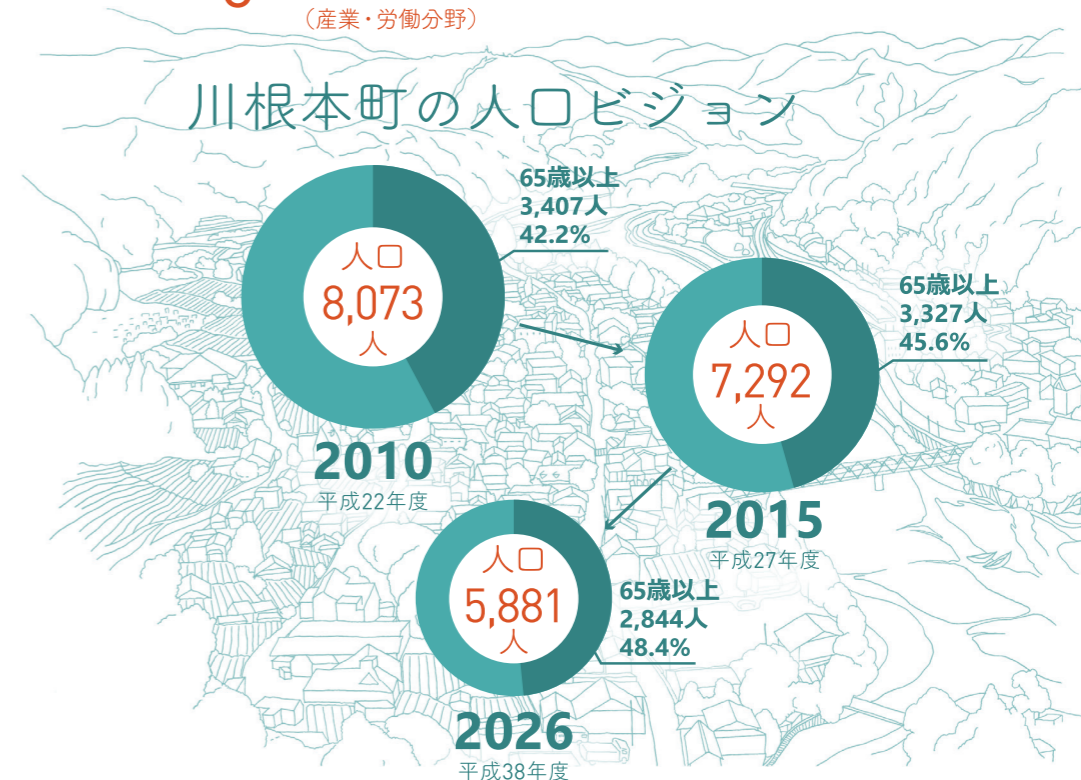


まちの将来像

川 根本町では、まちの将来像実現に向け、生活基盤の整備や産業の活性化、交流人口の増加などに努めてきました。また、南アルプスユネスコエコパークへの認定や日本で最も美しい村連合への加盟、茶草場農法の世界農業遺産への登録は、当町が持つ地域資源と自然環境への取組が世界に認められた成果といえます。一方、若者層の人口流出に伴い、人口減少や高齢化などの大きな課題に直面しています。「豊かな自然と美しい景観」、「ゆったりと時間が流れる生活空間」、「都市には無い、顔がわかる絆」といった特色を大切に継承し、地域が一体となったまちづくりに取り組んでいきます。

第2次総合計画における将来像

- 1 地域を支えるひとであふれるふるさと
(教育・文化分野)
- 2 安心して元気に暮らせるふるさと
(健康・福祉分野)
- 3 快適に安心して暮らせるふるさと
(生活環境・基盤整備分野)
- 4 自然・歴史と共に暮らすふるさと
(自然・環境・分析分野)
- 5 住民主役の地域づくりが盛んなふるさと
(住民参加・行政運営分野)
- 6 お茶と温泉、活気ある産業に満ちたふるさと
(産業・労働分野)



基本の理念

これまで継承してきた歴史・文化、そして町民が幸せを感じ、笑顔に満ちた千年先も続く「まち」をつくるために、「千年の学校」の目標である「ひとづくり」、「魅力づくり」、「活力づくり」の3つの観点により、施策を展開し、それを好循環また、相乗させることを基本理念とし、「水と森の番人が創る癒しの里 川根本町～豊かな自然、お茶と温泉に彩られた、だれもが安心して暮らせるふるさと～」を実現します。

3つの観点からまちづくりをします

1：ひとづくり

地域への誇りと愛着、豊かな才能を持った人があふれるまち
「人」はまちを支える根幹、いわば「人財」であり、最も大切な財産です。人の成長は町の全体の価値を高めることにつながります。学校教育、産業人材育成、生涯学習、生涯スポーツの充実により、自らの地域への誇りと愛着、豊かな才能を持つ「ひとづくり」を推進します。

2：魅力づくり

誰もが暮らしやすいまち
生活基盤の整備と満足度を高め、安心して住めるまちづくりを進め、まちの魅力としていきます。また、自然や温泉などの利活用を進めて、歴史・文化を継承・活用していきます。すべての人が「出番」と「役割」、「責任」を分かち合うコミュニティづくり・地域づくりを進めていきます。

3：活力づくり

豊かな生活を支える活力をつくる
「川根茶」を中心とした各産業と、豊かな自然や温泉などの地域資源を、地元企業や事業者と連携して、産業基盤のボトムアップ^(注1)を図り、新しい産業を生み出し、元気なまちづくりを推進します。そして、その魅力・価値を活かす仕組みを整え、戦略的にプロモーション^(注2)していきます。

ひとづくり・魅力づくり・活力づくりの好循環

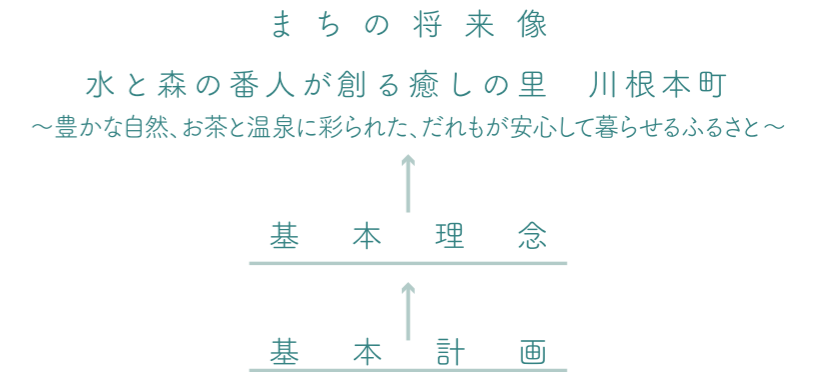
「ひとづくり」、「魅力づくり」、「活力づくり」の3つの施策展開とその好循環が基本理念です。「ひとづくり」、「魅力づくり」、「活力づくり」は、相互に関連し合い、相乗効果を持ちながら、川根本町に住むすべての住民の「幸せ」を高めていくような循環を生み出していきます。

(注1)ボトムアップ：下からの意見を吸い上げて全体をまとめていく管理方式
(注2)プロモーション：消費者の購買意欲を喚起するための活動のことをいう

基本計画の構成

第2次川根本町総合計画基本計画の構成は次のとおりとなります。

社会の潮流に合わせながら、川根本町の強みを活かす施策と人口減少の克服を目指す施策を重点戦略施策と位置付けるとともに、重点戦略施策を支える分野別施策を推進していきます。



重点戦略



↑ 社会の潮流に的確に対応する視点 ↑

分野別施策

- 教育・文化 分野 1 学校教育 2 産業人材育成
3 生涯学習 4 生涯スポーツ
- 健康・福祉 分野 1 保健医療 2 地域福祉 3 高齢者福祉
4 障がい者福祉 5 子育て支援
- 生活環境・基盤整備 分野 1 地域基盤 2 生活環境 3 生活安全
- 自然・環境・伝統 分野 1 歴史・文化 2 自然環境
3 景観形成 4 環境保全
- 住民参加・行政運営 分野 1 地域づくり 2 行財政
- 産業・労働 分野 1 農林業 2 商工業
3 観光業 4 プロモーション

重点戦略

川根本町の強みを活かすプロジェクト

川 根本町には、川根茶・温泉・自然等といった町民誰もが誇りに思う強みがあります。この強みを活かした施策を展開していくことが必要です。この強みを基軸とし、「豊かな時間の流れる暮らし」「癒し」「健康」等といった町の特色・特性と融合させることによって、強みを伸ばし本当の強みとしていき、川根本町だからこそできる施策を推進します。

川根茶

地域資源の価値の向上



川根茶や大井川産材は川根本町の町外に誇れる貴重な地域資源です。これら川根茶や大井川産材が持つ品質の高さを更に向上させていくことや6次産業化、また、販売戦略の構築を進めていきます。そして、その根底を支える担い手の育成・確保や品質向上を図るための生産基盤の強化を進めます。

温泉

地域資源の活用と新たな価値の創出



川根茶・温泉・自然といった町外に誇れる地域資源を有効に活用し、川根本町の持つ強みを活かした施策を展開するとともに、「SL・アパート式列車」や「癒し」等といった地域資源・特性、コンセプト等を組み合わせ、新たな価値の創出も視野に入れた施策を推進します。

自然

自然との共生・豊かな暮らしの実現



当町には南アルプスユネスコエコパークや日本で最も美しい村連合に認定された誇るべき自然と、茶園景観をはじめとする自然とうまく共生した美しい景観・伝統文化、また、あたたかい人と人との絆があります。これらの魅力を最大限に引き出し、生活と調和させ、都市にはない川根本町ならではの「豊かな暮らし」を実現させます。

重点戦略

人口減少の克服を目指すプロジェクト

人 口減少を克服するためには、出生率の向上、社会移動に伴う人口流出の抑制、人口流入の促進の3つの視点が必要となります。特に生産年齢人口を確保していくことはとても重要です。「農林業」や「商工業」、「観光業」等の多様化に応じたバランスの良い施策を展開することで、就労環境と就労機会の充実化を戦略的に促進します。また、川根本町が持つ豊かな自然環境を活用しながら、「教育」「子育て」という「未来」を創造する「投資」に積極的に取り組むことで、「豊かな」暮らしを享受することができます。

しごと

多様な就労環境の創出



- 多様な仕事を創出し、「人材育成」により培われた知識や技能を活かして、当町で暮らし、働けるようにする

ひと

生産年齢人口の流入、定住の促進



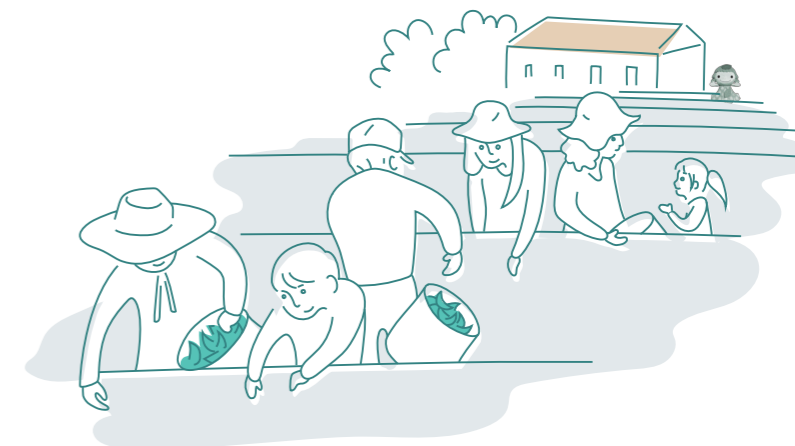
- 特色ある「教育」を展開し、若者を中心とした人の流れをつくる
- 地域資源を活かし、交流人口を増加させる

まち

誰もが暮らしやすいまちづくり



- 結婚・出産・子育てを支援し、安定した家庭生活を維持できる環境を整備する
- 誰もが健康で安心して便利に暮らせるコミュニティ、生活環境を整備する



教育文化分野

地域を支えるひとであふれるふるさと

学校教育

時代の変化に合わせて、地域特性に合わせた特色ある学校教育を進めます

幼児教育について

- すこやかに育ち、豊かな感性をはぐくむ幼児教育の推進

KPI (目標指数)	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
待機児童数	0人	0人

高校教育について

- 個性と能力を最大化できる高校教育への支援

KPI (目標指数)	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
川根留学生の人数	36人	90人

義務教育について

- 個性に応じたきめ細かな教育による確かな学力と人間性を育てる教育の推進

KPI (目標指数)	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
学校が楽しいと思う生徒の割合	69.1%	100%

学習環境について

- 快適な学習環境の整備

KPI (目標指数)	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
教育用 PC 1 台当たりの児童・生徒数	2.6人	1.0人

産業人材育成

町内の産業に必要とされる人材の育成・確保を行います

- 産業界から求められる能力を習得する機会の提供
- 町内の産業を支える人材の積極的な確保

KPI (目標指数)	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
産業人材育成に関するセミナー等の開催数(年間)	0回	2回

生涯学習

すべての住民が地域を学ぶ機会を持ち、地域で活躍できる場を提供します

生涯学習について

- 地域を知り、自ら進んで参加し、地域に貢献できる機会の創出

KPI (目標指数)	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
生涯学習に満足している人の割合	25.5%	26.8%

文化・芸術について

- 豊かな感性をはぐくむ文化・芸術活動の促進

KPI (目標指数)	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
文化施設利用者数	19,616人	19,000人

青少年活動について

- 未来を担う青少年の育成と社会参加の促進

KPI (目標指数)	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
放課後子供教室参加者数	83人	75人

生涯スポーツ

元気でいきいき暮らせる環境をつくります

- スポーツを通じたふれあいと健康づくりの推進
- 気軽にスポーツに取り組むことができる環境整備

KPI (目標指数)	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
生涯スポーツに満足している人の割合	16.4%	17.2%



健康・福祉分野

安心して元気に暮らせるふるさと

保健医療

健康づくり支援と、一次医療体制の充実を図ります

保健について

- 自発的な健康づくりの活動促進
- 疾病の早期発見・早期予防

KPI (目標指数)	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
保健に満足している人の割合	48.5%	50.0%
特定健診の受診率	52.4%	60.0%

医療について

- 地域医療体制の確保
- 町内外の医療機関等と連携した救急医療体制の充実

KPI (目標指数)	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
医療に満足している人の割合	30.5%	39.7%

地域福祉

関係機関と連携を密にして、豊かで安心して暮らせる地域づくりを進めます

- 地域における見守り体制の充実
- 生活困窮者の自立支援
- 福祉人材の確保・育成
- 地域福祉社会の実現

KPI (目標指数)	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
地域ボランティアの登録者数	188人	200人

高齢者福祉

高齢者が健康で暮らし続けられるようにサービスを充実させます

- 介護保険事業の円滑な推進
- 高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進
- 日常生活を支える支援の充実

KPI (目標指数)	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
要介護・要支援認定を受けていない高齢者割合	83.1%	84.0%

障がい者福祉

社会参加の機会や自立支援を中心とした取り組みを進めます

- 就労機会の充実と社会参加の促進
- 自立した生活を支える福祉サービスの充実

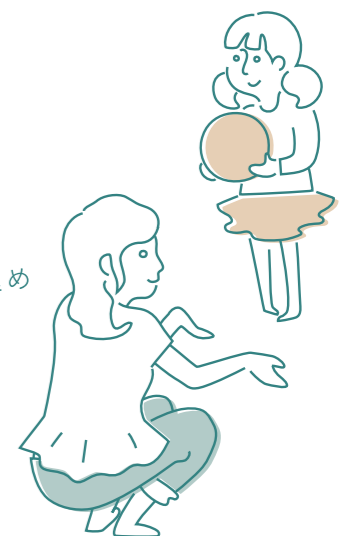
KPI (目標指数)	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
障がい者福祉が充実していると思う人の割合	22.8%	50.0%

子育て支援

自然とのふれあいなど、地域特性を活かした取り組みを進め結婚・出産・子育てなどがしやすい環境を作ります

- 子育てしやすい地域社会の実現
- 子育てへの不安の解消
- 男女交流機会の促進

KPI (目標指数)	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
子育て支援が充実していると思う人の割合	19.6%	50.0%



生活環境・基盤整備分野

快適に安心して暮らせるふるさと

地域基盤

生活や生産、経済活動の基盤となる土地のもつ価値を最大限に活用します

土地活用

- 適正な土地利用の計画的推進

道路・公共交通

- 快適に安心して利用できる交通体系の整備
- だれもが利用しやすいまちづくりの整備

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
生活道路整備率	86.5%	87.2%

生活環境

多様化するニーズに対応するため住宅環境整備やシステム構築を進めます

居住環境

- 自然と生活が調和した生活空間の創出と多様な生活スタイルに適した居住環境の提供

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
定住促進住宅建設補助金制度利用件数	9件	19件

衛生

- 安心・衛生的な生活環境の維持

内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
衛生に満足している人の割合	47.2%	61.4%

生活安全

広域な防災、救急、防犯の仕組みを作り暮らしやすい町を目指します

防災

- 地域防災力の向上と自然災害対策等の充実

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
地域防災訓練参加者の割合	50%	60%

交通安全・防犯

- 犯罪・事故の抑制

内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
交通事故の発生件数	26件	0件

ICT^(注1)

- ICTの活用による生活利便性の向上

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
公衆無線LANアクセスポイント設置ヶ所数	16ヶ所	25ヶ所

(注1)ICT：Information and Communication Technology(インフォメーションアンドコミュニケーションテクノロジー)の略称で、インターネットなどの通信技術を使ったコミュニケーションのこと

移住・定住

- 移住・定住の促進

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
移住者数	2人	5人

水道

- 安心・衛生的な生活環境の維持

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
水道に満足している人の割合	61.0%	100%

消防・救急

- 防災・救急体制の充実

内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
消防・救急に満足している人の割合	41.3%	60.0%



自然・環境・伝統分野

自然・歴史と共に暮らすふるさと

歴史・文化

地域の歴史伝統文化の伝承を大切にし、新たな文化を作ります

- 文化・伝統の保全と継承
- 文化・伝統を活かした地域づくりの推進

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
文化財登録件数	37件	37件

自然環境

自然にふれあう機会を作りながら、環境保全への対策をしていきます

- 豊かな生態系と生物多様性の保全
- 自然との新しいふれあいの機会の創出

内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
自然環境に満足している人の割合	14.9%	20.0%

景観形成

茶園を中心とした地域の資源を活かした魅力的な町の景観を作ります

- 美しい里山景観の保全と継承
- 自然を利活用した秩序ある景観形成の誘導

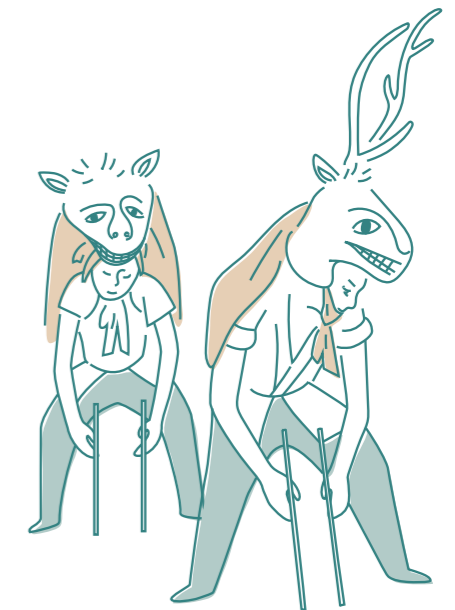
内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
景観形成に満足している人の割合	19.4%	26.0%

環境保全

地球温暖化防止効果や費用対効果に配慮しながら新しい環境を作ります

- 環境負荷の少ない自然共生型社会の創出
- 環境意識の醸成・人材育成

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
エコアクション21取り組み事業所数	7事業所	10事業所



住民参加・行政運営分野

住民主役の地域づくりが盛んなふるさと

地域づくり

地域に愛着をもって地域活動に参加しやすい意識づくり・環境づくりを進めます

住民のまちづくり活動

- 自治組織や地域づくり団体に対する活動支援
- 地域の課題解決を支えるコミュニティビジネス^(注1) ソーシャルビジネス^(注2)の支援

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
まちづくり活動に参加していると思う人の割合	現状値なし	50.0%

地域間交流・国際交流

- 国内外の多様な交流機会の創出

内容	現状値 (平成28年度)	目標値 (平成38年度)
町主体の地域間交流 国際交流事業数	3件	5件

行財政

効果的に施策を推進できる組織を作り、改革と活性化に努めます

行政運営

- 効果的な行政運営と効率的な財政運営

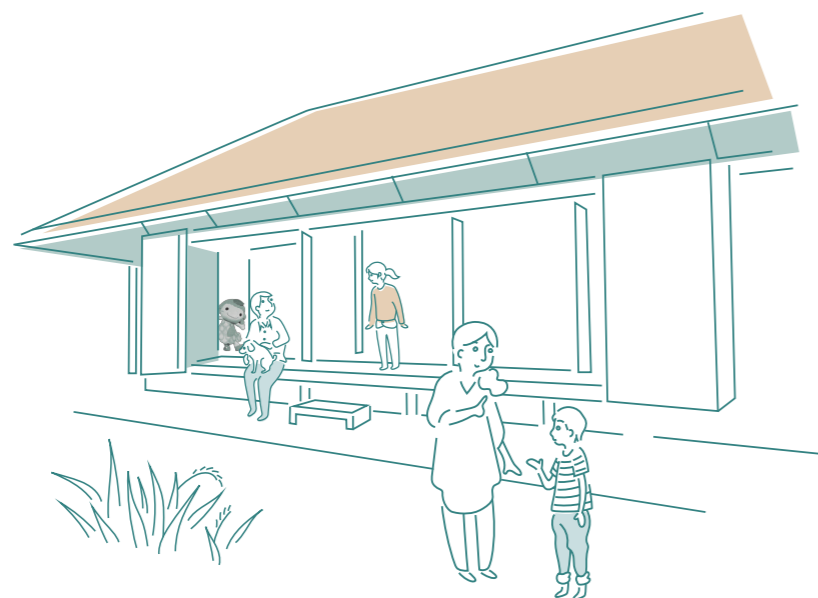
内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
経常収支比率[%] の改善	86.1%	85.0%

社会保険

- 社会保障制度の適正な利用の促進

(注1)コミュニティビジネス：ソーシャルビジネスの中でも、特に地域における課題解決に取り組むことを指す。地域の商店街の活性化等の一定の地域と結びつきが強い課題に取り組むことを指す。

(注2)ソーシャルビジネス：行政や住民、企業などが一体となって協力し、ビジネスの手法を使って社会や地域が抱える課題に取り組むこと。一部の地域課題ではなく、環境問題などの地域を超えた課題に取り組むことを指す。



産業・労働分野

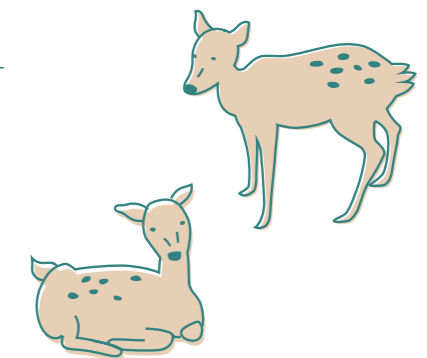
お茶と温泉・活気ある産業に満ちたふるさと

農林業

川根茶の品質、大井川産材木の活用を推進します

- 農林業の生産性向上と経営の再構築の促進
- 意欲的な担い手の確保と育成支援
- 第6次産業等の新たな事業展開への支援

内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
認定農業(法人)数	3件	5件



商工業

地域を支える商業の維持・活性化を図るため、さまざまな支援を充実させます

- 地元企業や事業者の経営基盤の強化
- 新たな仕事や事業機会の創出
- ソーシャルビジネスの起業支援

内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
商品販売額	437,622万円	440,000万円
製造品出荷額	850,186万円	850,000万円
新規創業者数	2件	7件

観光業

多様化するニーズに合わせて、周辺の市町と連携をして新たな観光資源を作ります

- 地域資源を有効活用した魅力的な観光地づくりへの支援と体制づくり
- 新たな観光商品・サービスの創出支援

内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
観光入込数	56.5万人	62.5万人

プロモーション

町の魅力を多くの人に知ってもらう為に効果的なプロモーションを推進します

- 地域マーケティング^(注1)、地域マネジメント^(注2)手法の導入
- 戦略的なプロモーションの展開
- 町内外に向けた積極的な情報発信
- インターネット、Web ページを活用した川根本町の魅力の共有と発信

内容	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成38年度)
町ホームページ アクセス件数	671,363件	800,000件

(注1)地域マーケティング：地域資源を用いて、顧客のニーズに対応する商品を作り、情報発信を行っていくこと。

(注2)地域マネジメント：地域社会のあり方を企画・立案し、それをまちづくりとして実践・運営し、経営管理していくこと。

